



医療経営士ニュース | これからの医療現場を担う経営人材のための機関紙

MMS NEWS

2024 9 月号
Vol.163
毎月1回発行(通巻163号)
編集:日本医療企画

一般社団法人日本医療経営実践協会 〒104-0032 東京都中央区八丁堀三丁目20番5号 S-GATE八丁堀9F TEL.03-3553-2906 http://www.JMMPA.jp/

第13回「全国医療経営士実践研究大会」福岡大会 演題発表登壇者決定!

演題発表に16名がエントリー 医療経営士の実践力を体感しよう

12月1日(日)に開催する第13回「全国医療経営士実践研究大会」福岡大会の演題発表に登壇する医療経営士が決定した。今大会では前大会の10名を大幅に上回る16名がエントリー。登壇者と発表テーマを紹介する。

全国大会の価値を高める 医療経営士による発表

全国で活躍する医療経営士による演題発表は、全国大会のメインプログラムとして毎回多くの注目を集めている。一人ひとりの医療経営士がそれぞれの現場でどのように考え、動き、結果を出してきたのかを発表いただくことで、医療経営士が果たすべき役割が明確になる。さらに、参加者がそこで学び、得た知見を自らの職場にフィードバックしていただくことで、医療界全体の活性化、そして医療経営士の活躍の場が広がっていくことを目的としている。

今大会では16名の医療経営士が登壇する(表)。過去最多登壇を誇る酒井利明

氏は2019年の仙台大会以来、5年ぶりの登壇。また昨年は登壇者がいなかった企業所属として株式会社栗原医療器械店の渡邊新之介氏がエントリー。ぜひ存在感をアピールしていただきたい。

各発表は質疑応答を含め15分で行われる。全員の発表終了後、吉長成恭氏(日本医療経営実践協会理事)を審査委員長とする審査委員会によって審査が行われ、受賞者には賞状と記念品が贈呈される。

今大会のテーマは「医療経営士の働き方が病医院を変革するー今、求められるマネジメント能力と具体的な実践方法」。16名の医療経営士が発表する、具体的な実践的な変革の内容を楽しみにしたい。

演題発表者と演題タイトル一覧(50音順)

発表者名	所属機関・役職	支部	等級	演題タイトル
池田基樹	医療法人社団英志会富士整形外科病院 事務部 兼 病院機能推進室 部長	東海	3級	骨粗鬆症診療における組織マネジメントとチーム医療促進の効果
石川真太郎	医療法人社団英志会富士整形外科病院 事務部門 事務長	東海	3級	自由診療部門の収益改善に有効であった受療確度管理表の設計と運用について
小川利明	医療法人おもと会 統括本部人事部長	九州	3級	採用広報におけるエモーショナルなアプローチの可能性について
小栗 篤	学校法人近畿大学 法人本部管理部長	関西	2級	医療経営士、具体と抽象の往復運動ー医療従事者の業務負担軽減のアプローチー
岡本光順	埼玉医科大学国際医療センター 副院長・消化器外科教授	関東	1級	安全で質の高い外科治療を目的とした組織マネジメント
金子 瑛	福島赤十字病院 事務部 経営企画課 主事	東北	2級	経営改善実行のための「チーム作り」と「アクションプラン」の活用
佐賀友美	医療法人仁心会深仁会真駒内在宅クリニック 訪問リハビリテーション科	北海道	3級	訪問リハビリテーションにおける新たな提供エリアへの挑戦 ~まこくりの拡大戦略とその成果~
佐竹直也	医療法人松田会 事務部 部長	東北	2級	人間関係がカギとなる病院経営ーI病院の統合と変革の実践報告
酒井利明	社会福祉法人恩賜財団済生会京都済生会病院 診療情報管理室 主事	関西	2級	コミュニケーションを重視することによっての効果
中神勇輝	医療法人真生会真生会富山病院 経営企画部 企画課・総務課・経理課 課長	北陸	1級	経営の見える化の進化 未来へのシナリオ作り(法人中期計画と事業計画、予算実績管理、部署目標チャレンジ活動の仕組み)
平石拓也	医療法人ひらまつ病院 財務部	九州	3級	続 未来を描く人間力が地域医療を支える原動力ーリアルマネジメント
盛田滝斗	公益社団法人日本海員救済会病院名古屋救済会病院 広報部 課長補佐	東海	2級	病院ERDドキュメンタリー映画化における医療経営士としての広報活動
矢野恵美	社会医療法人加納岩 財団事務局 経営企画室 兼 財務課 主任	関東	2級	予算管理の重要性ーどん底からの再生ストーリーー
山内剛志	社会福祉法人恩賜財団済生会みすみ病院 医事室 兼 情報システム室 係長	九州	1級	「コミュニティホスピタル」が日本を元気にー今、医療経営士が取り組むことー
山田竜也	特定医療法人社団勝木会わたメディカルセンター 看護部 課長	北陸	3級	えっ、看護部ですか!? ~看護部に配属された医療経営士が実践した一例~
渡邊新之介	株式会社栗原医療器械店 カスタマーディライト部 部長	関東	3級	大型治療機器導入による医療圏内患者流出抑制と経営基盤強化に向けた実践的アプローチ

※9月10日現在 等級は医療経営士資格等級。演題タイトル等は変更になる可能性があります

第13回 全国医療経営士実践研究大会 福岡大会

開催日
2024年
12月1日
日

医療経営士の働き方が病医院を 変革する

~今、求められるマネジメント能力と
具体的実践方法~

大会運営委員長 | 矢野正子 日本医療経営実践協会九州支部支部長/
聖マリア学院大学名誉学長

会場 | オリエンタルホテル福岡 博多ステーション

※開催前日の11月30日(土)に懇親
会(前夜祭)を行います。詳細はホ
ームページでご確認ください。



「答えのないテーマ」を取り上げ 医療経営士が激論を交わす!



日本医療経営実践協会関東支部神奈川県研究会は今年5月、第50回となる研究会を開催した。今後の研究会のあり方について研究会の幹事メンバーで議論を行うなかで、「知識を身につけるための研究会から、『答えのない問いを問い続ける能力を磨く』ための研究会に挑戦する」という新たな方向性が見えてきたという。これからの神奈川県研究会の方向性について話を聞いた。

研究会を10年続けて 「意義」を考える

神奈川県研究会は2014年に地域に根ざした研究会として発足、2017年2月より医療経営士からなる運営事務局を設け、自主研究会のトップランナーとして活動を続けてきた。これまで1年に数回のペースで研究会を行い、今年5月には節目となる50回目の研究会を開催した。

これまで選んできた研究会テーマは診療報酬改定のポイント解説から物品購入にあたっての交渉事例まで多岐にわたる。研究会のスタイルは活躍している医療経営士か、外部講師を招いて講演してもらい、講演後に質疑応答に移るといった形式で行ってきた。研究会に参加する方々の意欲も高く、毎回、30分の質疑応答では時間が足りず、会場の閉鎖時間まで講師に質問したり、あるいはコロナ禍では休止していたものの講演会後の懇親会で講演テーマについて議論や情報交換を行ったりといった場面が見られていた。

神奈川県研究会世話人代表を務める済生会横浜市東部病院の金城悠貴氏は「こうした講演

会形式の研究会によって得るものは多く、内容も実践的で職場に持ち帰って翌日から役立てることが可能という点は、参加者にとっても有意義であったと思っています」と話す。

「とはいえ、その一方で医療経営士はさらに一歩踏み込んだ問題意識を持つべきではないかという思いもありました。インターネットを検索すればかなり踏み込んだ『解』が得られるようになっていきますし、SNSなどを通じて全国の医療経営士とコミュニケーションを図ることができるようになってきました」と金城氏。

答えが見つからない テーマを取り上げる

そうしたなかで「新たに挑戦しよう」と研究会幹事のあいだで意見が一致したのが、「答えが見つからない、もしくは見つからない」テーマを研究会で取り上げるという方針だった。さらにこれまでのような講師による一方的な講義という形ではなく、対話形式を採用。なかなか答えが出なさそうなテーマについて複数

人のパネリストで対話しながら掘り下げるといったスタイルで開催することで、知識を身につけるための研究会から、「答えの出ない問いを問い続ける能力を磨く」ための研究会へと新たな一歩を踏み出すこととなった。

その端緒となる第52回研究会（9月20日開催）のテーマは「保険医療でどこまでカバーすべき?」。その後もさまざまなテーマを取り上げていく予定だ。

「それぞれのテーマについて、背景や視点が違えば、あるべき論も違ってきます。5人集まれば5通りの答え、あるいはそれ以上の見方や考え方が出てくるというなかで、お互いの意見を場に出し合い、高め合う。そういう時間を皆で作ってあげたいと考えています」と抱負を語る金城氏。医療経営士としての新たなステージを目指す、神奈川県研究会の今後に期待したい。

神奈川県研究会 Peatix
最新の研究会情報配信中!



T O P I C S

神奈川県研究会が対話形式で保険医療のあり方を考える

日本医療経営実践協会関東支部神奈川県研究会は9月20日、第52回研究会「保険医療でどこまでカバーすべき?」を開催した。パネリストと参加者による対話形式での開催となった今回の研究会、冒頭挨拶を行った世話人代表の金城悠貴氏は、「この研究会も50回、10年を超えてそろそろ新しいことをやりたい」と述べ、これまでとは異なる実験的なスタイルでの開催に至った経緯を説明した。

ディスカッションはテーマに基づいて金城氏が用意した質問を3名のパネリストに投げかけ、パネリストだけでなく参加者にも随時発言を求めながら議論を深めていく形で行われた。

最初の質問は「保険の種類別によって選択肢を制限すべきか」。この10月からスタートする長期収載品を希望する場合の選定療養制度について、生活保護の受給者は対象外とされていることを踏まえながら、医療機関、製薬会社、一般企業等、それぞれの立場からの意見が交わされた。

次に取り上げた質問は「お産の保険収載」について。産科についてはこれまでで自費であったからこそ病院がそれぞれ工夫することでサービスが多様化し、結



参加者同士の対話で考える力を向上させる場となる

果として産む側にとってもプラスになっていたのではないかと議論がなされた。最後は「助かる見込みのない患者の延命治療を公的保険の対象とすべきか」という質問について、各自の持つ倫理観等も踏まえながら論じ合った。

参加者全員が答えのない問題について真剣に向き合い、お互いの意見を尊重しながら考えを深めていく場となった今回の神奈川県研究会。医療経営士の研究会の新しい形を示したと言えるのではないだろうか。

神奈川県研究会では今後通常の講義形式も行いながら、対話形式の研究会も随時開催していく予定だ。最新情報については協会ホームページにてご確認ください。

(現役会員から協会役員が誕生!)

新理事に聞く、医療経営士の未来

一般社団法人日本医療経営実践協会では2024年度上期理事会において新たな役員を選出、現役の医療経営士4名が理事に就任した。現場の意見がより反映される体制とすることで、会員サービスのさらなる向上に努めていく。

今号では2名の新理事より就任のご挨拶を申し上げる。

資格の社会的価値向上に努める

医療法人社団尚志会理事長 大宮 謙一



この度、日本医療経営実践協会の理事を拝命いたしました医療法人社団尚志会の大宮謙一と申します。脳神経外科/脳卒中外科医として卒後10年ほど最前線で医療に携わって参りました。

初期研修医時代からお世話になりました中村記念病院、後期研修医時代にお世話になりました亀田総合病院ともに日本を代表する医療機関であり、若手時代からDPCや在院日数への配慮、レセプト病名付け、特に高額レセプト症例における中央審査用の症状詳記など常に診療とともに経営的な目線を指導されました。

その後30代半ばで中規模脳神経外科病院の院長職のオファーをいただき、医療経営について詳しく学ぶため医療経営士の資格を取ったことが最近のことのように思い出されます。

学んだ知識をもとに勤務先医療機関のSWOT分析を行い、救急搬送台数と入院症例の大幅増を達成し30代後半で脳神経外科部長に任命されました。戦略的意思決定の点から自己決定権を持ち、自身の理想とする医療を体現したいという気持ちが強くなり2022年春に自院を開業いたしました。

医療経営面での知識をもとに社会的なニーズを捉え、おかげさまで開業1年目で新規症例3000例を達成し、スタッフや先生方の頑張りもあり現在では地域において同部門で上位クラスの医療機関となりました。

医療経営士の資格は医療専門職にこそ親和性が高いと実感しております。協会活動では医療経営士1級/医療経営指導士としての責任を全うするため助成研究や全国大会では毎年演者として発表して参りました。3級から1級まで各級の医療経営士試験を経験し、かつ現役で医療機関を運営している医療経営士と自負しております。

小生もそうでありましたが、上級資格を取得できる知識が付く頃には診療現場でも多様な角度から患者さん、医療機関ともにメリットのある診療や入口/出口戦略を立てることができるようになります。診療の幅が広がり医療人としての成長に繋がりますため皆様には是非2級、1級の取得を目指していただければ幸いです。

引き続き協会にご登録いただいている皆様の活躍を応援させていただくとともに医療業界において医療系経営士資格保有者が厚遇されるよう、資格の社会的価値向上に貢献して参る所存です。若輩ではございますが、協会理事として足跡を残せるよう尽力いたしますとともに、1万人を超える会員の皆様と原勝則代表理事をはじめとした理事の皆様のお力をお借りして本邦の医療システムの方向性を正すような仕事ができれば幸甚です。

医療機関の「経営不在」解決へ

株式会社日本医療企画 原 正英



この度、日本医療経営実践協会よりお声掛けをいただき理事を拝命いたしました。役員として協会の発展に尽力してまいります。何卒よろしくご挨拶申し上げます。

医療経営士資格試験の利点は、職種、職域を問わず、誰もが受験できることです。医療と経営の両方の分野を併せ持つ専門家として認定された認知度の高い資格です。そこには明確な水準が設定されており、試験合格により各級の資格を得られることです。医療機関勤務者、薬局、医療機器会社、製薬企業、卸売企業、金融機関、人材派遣会社、コンサルタント会社、生命保険会社、行政機関、公務員、政治家、弁護士、公認会計士、税理士、社労士等、さまざまな職種の方がこれまで資格を取られて、それぞれの専門域から持続的な医療提供体制へ提言をされ、貢献をされています。

なぜ、医療経営士が今、注目されているのでしょうか？ 少子高齢化、生産労働人口の減少で社会保障費が増大する一方、公的債務が累増しており、診療報酬改定はその影響を受け、財政難を反映する表れとなっています。2024年度の診療報酬改定は、これまでの流れが変わったように思います。診療所において、慢性疾患治療算定にメスが入った厳しい改定となりました。新型コロナウイルス感染症発症から5年になろうとしています。5類に変更となった2023年5月から1年が過ぎても病院、施設に患者、入所者が戻っていない状況が続いています。経営主体が自治体や公的病院の場合、約70%が赤字、私的病院でも約50%は赤字経営を余儀なくされています。病床稼働率も平均で10%程度低下し、多数が、70%を下回るレベルになっています。

医療の質を保ち、患者満足度を高めることは医療機関として重要であり、地域で事業経営を継続するためには、経営的視点を考慮する必要があります。多くの医療機関に経営的視点から最適を考える機会が不足している「経営不在」がはびこっており、経営的側面からの解決に強くないということが課題として挙げられます。

急性期病床の在り方、地域包括医療病棟の示唆、誠意ある逆紹介徹底あつての紹介率向上、医師の働き方改革施行に伴い、多職種連携、タスクシフト、タスクシェア、総合診療医の拡充、地域医療連携推進法人化等、医療経営士から多くの発信がなされることでしょうか。それらの発信を協会としてしっかりと受け止め、全国の医療経営士だけでなく医療界全体に向けて発信していくことが協会の役割であると考えています。それに貢献できるよう努めてまいります。

事務局 掲示板

第13回全国大会福岡大会のポスターが完成
掲示していただける会員の方を募集中

第13回「全国医療経営士実践研究大会」福岡大会のポスター（B2サイズ）が完成しました。今年もあおきてつお先生にイラストを描いていただいています。こちらを掲示していただける会員の方を募集します。

ご希望の方は「全国大会ポスター希望」と件名をつけ、お名前、認定登録番号、送付先住所、電話番号、必要枚数を明記の上、下記メールアドレスまでご連絡ください。

【ポスターのお申し込み】E-mail: info@jmmpa.jp

会報誌『理論と実践』投稿募集中
自分の声を会員に届けよう

当協会が発行している会報誌『理論と実践』では、会員の皆さまからの投稿を募集しています。日頃の職務における疑問や悩み、業務改善へ向けたアイデア、病院経営や医療

政策・制度に関する論文や問題提起等、内容は自由です。採用原稿については薄謝を呈いたします。お気軽にご投稿ください。

【お申し込み】E-mail: info@jmmpa.jp

PICK UP 研究会

東北支部

第24回みやぎ仙台ネットワーク

事務部門のマネジメントと人材育成

「ともに学び、ともに考え、ともに成長する」を合い言葉に、気軽に情報交換ができる横のつながりづくりと宮城県内1病院1医療経営士の育成を目指し、活動を行っているみやぎ仙台ネットワーク。24回目となる研究会では、「事務部門のマネジメントと人材育成」をテーマに取り上げます。

講師は社会医療法人加納岩（山梨県）事務局長の宮沢圭一氏。宮沢氏は2022年4月に法人の人事制度を改定、主任以上の管理職は医療経営士3級の取得を必須とするなどの資格要件を設け、現在では法人内で28名が医療経営士3級以上を取得するなど、組織改革を推し進めるリーダーシップに定評があります。現場と協働し組織を動かす事務職を育成していくためには何が必要なのか、皆さまと考えていきます。全国からオンラインでご参加いただけます。ぜひご参加ください。

【開催概要】

- 日時 2024年10月18日(金) 19:00~20:30
- 内容 第1部 話題提供
「事務部門のマネジメントと人材育成」
宮沢圭一氏
(社会医療法人加納岩事務局長)
第2部 グループワーク
「みんなの取り組みを共有しよう」
- 形式 オンライン(Zoom)
- 参加費 無料(企業の方は医療経営士のみ参加可能)
- お申込み・お問い合わせ先
みやぎ仙台ネットワーク事務局
(株式会社日本医療企画東北支社内)
TEL:022-281-8536



宮沢圭一氏



日本医療経営実践協会 支部研究会スケジュール

開催日	開催支部	テーマ	講師
9月28日(土)	関西	第38回関西医療経営勉強会 「診療報酬改定が及ぼす病院連携と退院支援への影響」	渡鍋宏 氏(医療法人なぎさ会 グループホーム白馬)
9月末まで	関西	“イチからわかる” 介護経営オンライン塾 ※第1回~第4回の講義をアーカイブ配信	古株靖久氏(有限責任監査法人トーマツ) 熊田圭佑氏(Meister株式会社代表取締役)
10月18日(金)	東北	第24回みやぎ仙台ネットワーク 事務部門のマネジメントと人材育成	宮沢圭一氏(社会医療法人加納岩事務局長)
11月20日(水)	関西	“イチからわかる” 病院経営オンライン塾 第1回「病院経営を取り巻く環境を学ぶ」	古株靖久氏(有限責任監査法人トーマツ)

※日程等は変更になる場合があります。詳細は協会ホームページでご確認ください。

好評配信中

各10分のショート動画でスキマ時間を有効活用!

WEB講座

日本ヘルスケア
経営学院
公開講座

医療現場のコミュニケーション&
ハラスメント対応スキルアップ研修

講座概要



●講師
石井富美氏
(多摩大学医療・
介護ソリューション
研究所副所長)

講義内容

- ①ブランディングの鏡
- ②医療現場のトラブル対応
- ③医療現場のハラスメントの仕組みと対処法
- ④コミュニケーションスタイルを知ろう
- ⑤コミュニケーションスキルアップ

- ▶参加料:4,400円(税込)
- ▶講義時間:各10分程度(全5本)
- ▶受講期間:20日間

お申込みはコチラ➡



【お問い合わせ先】日本ヘルスケア経営学院 事務局(日本医療企画内) ☎03-3553-2862 <https://hcmi-s.net/>